

全体	目次	前回	次回	略解
----	----	----	----	----

更新 Time-stamp: "2005/06/15 Wed 21:08 hig"

quiz 略解 8

$$1. \mathbf{v}(t) = \frac{d\mathbf{r}}{dt}(t) = \begin{pmatrix} 2t \\ -3t^2 \\ -8 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{a}(t) = \frac{d^2\mathbf{r}}{dt^2}(t) = \begin{pmatrix} 2 \\ -6t \\ 0 \end{pmatrix}$$

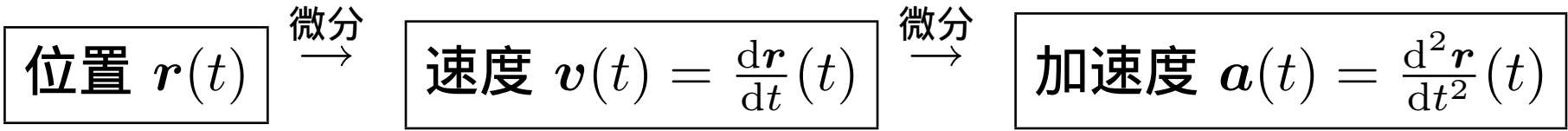
2. 速さを $v(t)$ とすると, $f(t) = v(t)^2 = (2t)^2 + (-3t^2)^2 + (-8)^2$. これ
が最小になる時刻を求める. 微分して $\frac{df}{dt}(t) = 8t + 36t^3$. 増減表を
書くと, $t = 0$ で最小.

$$3. \mathbf{r}(0) = \begin{pmatrix} -4 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \mathbf{v}(0) = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ -8 \end{pmatrix}, \mathbf{a}(0) = \begin{pmatrix} 2 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}.$$

4. 相対位置ベクトルを $\mathbf{r}_1(t) = \mathbf{r}_P(t) - \mathbf{r}_Q(t)$ とおいたとき,
 $|\mathbf{r}_1(t)|^2 = 20t^2 - 40t + 29$ が最小になる時刻を求めればよく, $t = 1$.

夏のプチテストやります! 06/23(木) です. 科目の成績 100 点のうち 25
点分. 範囲などは掲示参照.

先週のメッセージ



$$\lim_{\Delta t \rightarrow 0} \frac{\Delta \mathbf{A}}{\Delta t} = \frac{d}{dt} \mathbf{A}(t) = \begin{pmatrix} \frac{dA_1}{dt}(t) \\ \frac{dA_2}{dt}(t) \\ \frac{dA_3}{dt}(t) \end{pmatrix} \quad (87)$$

6.6 相対速度

物体 P, Q の位置ベクトル: $r_P(t), r_Q(t)$

物体 Q に対する 物体 P の相対位置ベクトル: $r_1(t) = r_P(t) - r_Q(t)$

物体 Q に対する 物体 P の相対速度ベクトル:

$v_1(t) =$ 59 $= \frac{dr_P}{dt}(t) - \frac{dr_Q}{dt}(t).$

例題 15

物体 P, 物体 Q の位置ベクトルを $r_P(t) = \begin{pmatrix} 2 \cos t \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$, $r_Q(t) = \begin{pmatrix} 0 \\ \sin t \\ 0 \end{pmatrix}$ とする. 物体 P の Q に対する相対速度の大きさがもっとも大きい時刻を求めよう.

7. 位置速度加速度ベクトルと積分

香中 3 章

7.1 積分は微分の逆

変数 t の関数 $f(t), F(t)$ が,

$$\frac{dF}{dt}(t) = f(t) \quad (88)$$

を満たすとする (例えば, 位置 $x(t) = F(t)$, 速度 $v(t) = f(t)$). このとき,

$$\int f(t)dt = F(t) + C. \quad (89)$$

- $f(t)$ は $F(t)$ の (1 階) 微分, 61
- $F(t) + C$ は $f(t)$ の (不定) 積分, 62, C は積分定数.

積分の計算法

香中 p.50

微積分 5.6

- 63

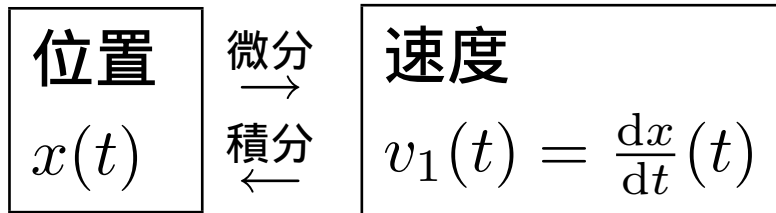
- 64

- 三角関数の積分
- 指数関数の積分
- 置換積分 (変数変換)
- 部分積分
- 公式集を見る
- いろんな超絶技巧

7.2 速度の積分は位置

位置 $\boldsymbol{r}(t) = \begin{pmatrix} x(t) \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$, 速度 $\boldsymbol{v}(t) = \begin{pmatrix} v_1(t) \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ に対して,

$$\frac{dx}{dt}(t) = v_1(t) \quad \text{だから} \quad x(t) = \int v_1(t)dt + C = \int \frac{dx}{dt}(t)dt + C \quad (90)$$



例題 16

1. 物体の速度が $v_1(t) = t^2 - \sin(2t)$ である. また, $x(0) = 2$ である.
 $x(2\pi)$ を求めよう.
2. 物体の速度が $v_1(t) = \frac{1}{t} - \cos(\pi t)$ である. 最初 $t = 1$ から 最後
 $t = 2$ までの座標の変位 $\Delta x = x(2) - x(1)$ を求めよう.

$x(0) = 2$ のような条件を, 65 を用いて決めることができる.

という. 積分定数は, これ

7.3 速度の定積分は変位

香中 p.64

微積分 4.2

$$F(t) = \int f(t)dt + C \quad (91)$$

のとき,

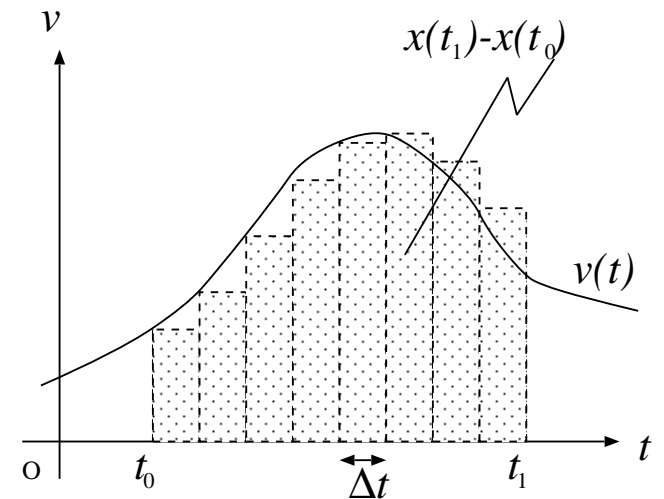
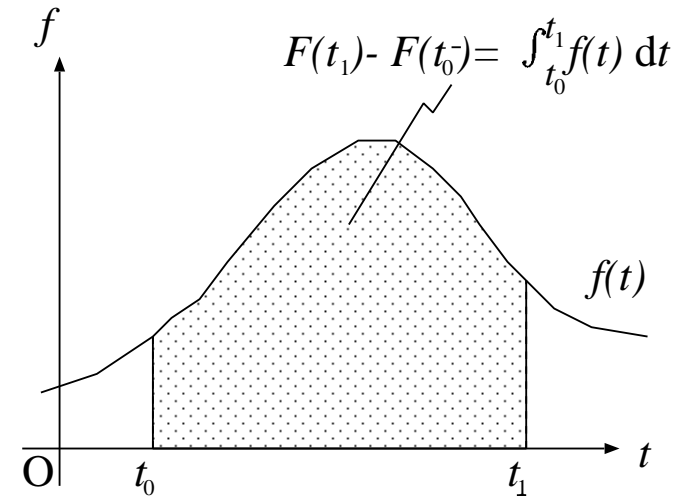
$$F(t_1) - F(t_0) = \int_{t_0}^{t_1} f(t)dt \quad (92)$$

を定積分という。これは、 $f(t)$ のグラフと $t = t_0, t = t_1$ で囲まれる部分の面積。

$t = t_0$ から $t = t_1$ までの x 座標の変位 Δx は

$$\Delta x = x(t_1) - x(t_0) = \int_{t_0}^{t_1} v_1(t)dt \quad (93)$$

のように定積分で表わせる。



例題 16 の 1 の別解

67

(94)

7.4 速度ベクトルの積分は位置ベクトル

時刻 t の位置ベクトルを $r(t)$ とすると, 速度ベクトル $v(t)$ は

$$\frac{d\mathbf{r}}{dt}(t) = \mathbf{v}(t) \quad \text{すなわち} \quad \begin{pmatrix} \frac{dx}{dt}(t) \\ \frac{dy}{dt}(t) \\ \frac{dz}{dt}(t) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} v_1(t) \\ v_2(t) \\ v_3(t) \end{pmatrix} \quad (95)$$

で与えられるのだった. したがって逆に,

$$x(t) = \int v_1(t) dt + C_1, \quad (96)$$

$$y(t) = \int v_2(t) dt + C_2, \quad (97)$$

$$z(t) = \int v_3(t) dt + C_3. \quad (98)$$

C_1, C_2, C_3 は積分定数. これをまとめて, 次のようにかく.

$$\mathbf{r}(t) = \int \mathbf{v}(t)dt + \mathbf{C}. \text{ (ベクトル値関数の積分)} \quad (99)$$

7.5 加速度ベクトルの積分は速度ベクトル

同様に加速度ベクトルは, $\frac{d\mathbf{v}}{dt}(t) = \begin{pmatrix} \frac{dv_1}{dt}(t) \\ \frac{dv_2}{dt}(t) \\ \frac{dv_3}{dt}(t) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a_1(t) \\ a_2(t) \\ a_3(t) \end{pmatrix} = \mathbf{a}(t)$ より,

$$v_1(t) = \int a_1(t)dt + D_1, \quad (100)$$

$$v_2(t) = \int a_2(t)dt + D_2, \quad (101)$$

$$v_3(t) = \int a_3(t)dt + D_3. \quad (102)$$

よって $\mathbf{v}(t) = \int \mathbf{a}(t)dt + \mathbf{D}. \text{ (}\mathbf{D} = \begin{pmatrix} D_1 \\ D_2 \\ D_3 \end{pmatrix} \text{ は積分定数)}$ (103)

例題 17

物体が、加速度 $a(t) = \begin{pmatrix} -4 \cos(2t) \\ -2 \sin(2t) \\ 0 \end{pmatrix}$ で運動している。初期条件を速度 $\frac{dr}{dt}(0) = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$ とする。最も遅く動いている時刻とその速さを求めよう。

7.6 等速直線運動

加速度が 0, つまり, $a(t) = \mathbf{0}$ の場合を考える.

$$\begin{cases} \frac{d^2x}{dt^2}(t) = 0 \\ \frac{d^2y}{dt^2}(t) = 0 \\ \frac{d^2z}{dt^2}(t) = 0 \end{cases} \xrightarrow{\text{積分}} \begin{cases} \frac{dx}{dt}(t) = C_1 \\ \frac{dy}{dt}(t) = C_2 \\ \frac{dz}{dt}(t) = C_3 \end{cases} \xrightarrow{\text{積分}} \begin{cases} x(t) = C_1t + D_1 \\ y(t) = C_2t + D_2 \\ z(t) = C_3t + D_3 \end{cases} \quad (104)$$

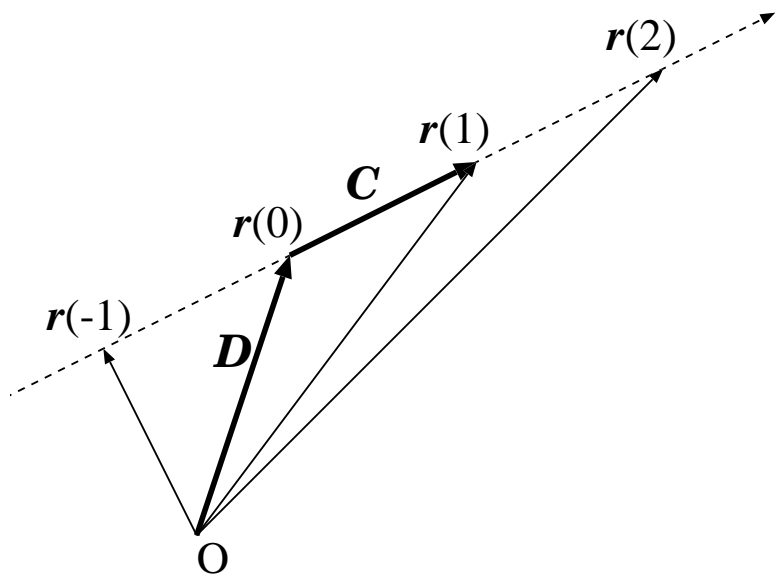
別の書き方では

$$\mathbf{a}(t) = \frac{d^2\mathbf{r}}{dt^2}(t) = \mathbf{0}, \rightsquigarrow \mathbf{v}(t) = \frac{d\mathbf{r}}{dt}(t) = \mathbf{C}, \rightsquigarrow \boxed{69} \quad (105)$$

ただし, $\mathbf{C} = \begin{pmatrix} C_1 \\ C_2 \\ C_3 \end{pmatrix}$, $\mathbf{D} = \begin{pmatrix} D_1 \\ D_2 \\ D_3 \end{pmatrix}$ は積分定数.

これって直線のパラメータ表示.

等速直線運動 → アニメ i/V/EZ アプリ



軌跡の式は, t を消去して

$$\frac{x - D_1}{C_1} = \frac{y - D_2}{C_2} = \frac{z - D_3}{C_3}. \quad (106)$$

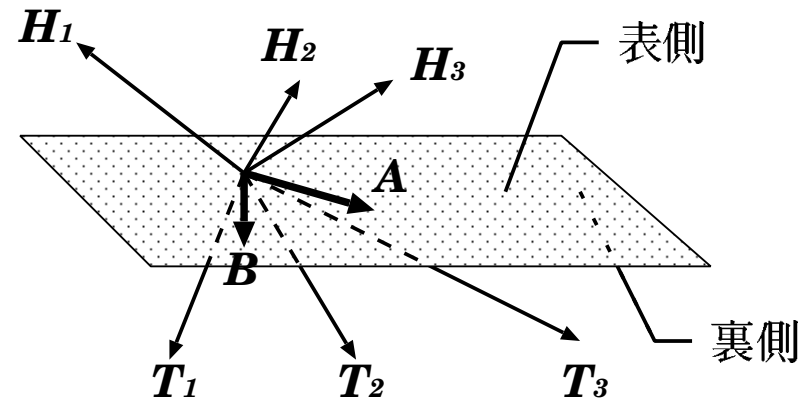
quiz 9

x, y, z 軸の正の向きの基本ベクトルを i, j, k とする. ベクトル

$$A = i - j = \begin{pmatrix} +1 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix}, B = i + 2j + k = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} \text{ とする.}$$

ベクトル A, B の両方がのっている平面は 1 つだけある (図では薄く塗られている. それは xy 平面とは異なる). 下の図は, その平面を斜めから見たものである.

物体が平面の表裏どちら側にあるかについて, 位置ベクトルが H_1, H_2, H_3 のようなものを表側, 位置ベクトルが T_1, T_2, T_3 のようなものを裏側にあるということにする.



物体の, 加速度ベクトルは, $a(t) = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ -2 \end{pmatrix}$ である. また, この物体の運動は $\frac{dr}{dt}(1) = \begin{pmatrix} -1 \\ -1 \\ -2 \end{pmatrix}, r(-1) = \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ を満たす.

1. 物体の位置ベクトル $r(t)$ を求めよう.

2. 物体が平面上にある時刻を求めよう.
3. 物体の位置ベクトルが裏側にある時間の長さを求めよう.

今週のメッセージ

71

教科書のお奨め問題

香中例題 3.1(p.51), 香中 3.7 章末問題 3.1, 3.8

講義のビデオ

UserID:

Password:

科目のページ + リクエスト / 質問 / 苦情用掲示板



<http://hig3.net>

全体	目次	前回	次回	略解
----	----	----	----	----